

令和3年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業
 (Ⅱ 外国人の子供の就学促進事業)
 事業内容報告書の概要

都道府県・市区町村・協議会名【愛知県海部郡蟹江町】
令和3年度に実施した取組の内容及び成果と課題
<p>1. 事業の実施体制</p> <p>当町委託事業先プレスクール支援者6人 お知らせ翻訳・説明会通訳等の外部協力者 4人</p>
<p>2. 具体の取組内容 ※取り組んだ実施事項①～⑥について、それぞれ記入すること</p> <p>実施項目:①不就学等の外国人の子供に係る学校等との連絡調整 ・10/13～11/4、各小学校の就学時健康診断立ち会い、外国人保護者の支援をし、小学校へ情報を伝達した。 ・3/12 小学校就学前説明会を開催、通訳を付け、学校へ行く準備に必要な事項を説明した。 参加者: 32人(対象児4家庭) 支援者11人 小学校へ行く準備に必要な様々な事柄の説明。通訳を付けて行った。</p> <p>実施項目:②学校外における、不就学等の外国人の子供に対する日本語、教科若しくは母語指導又は学習習慣の確保に係る指導のための教室の開設 ・プレスクール・プレプレスクールを町内各保育所・幼稚園にて年長児/年中児の就学前指導実施 開催回数 107回 対象児:年長児9人、年中児7人</p> <p>実施項目:④不就学等の外国人の子供に係る地域社会との交流の促進 ・①②を利用して、外国人保護者と、地域との交流の機会を作った。 保護者相互の連絡メール、ラインのやり取りをした。 ・外国人住民より情報を早期に得て、小中学校と共有することができた。</p> <p>実施項目:⑥その他不就学等の外国人の子供の就学の促進に資する地域独自の取組 ・私立幼稚園に通っている外国人の子どものプレスクールを継続した。 ・未就園の子どもの情報、年度途中の転入児、転出児の情報を小学校等関係各所と協力して、入手、交換し、就学の促進に努めた。 ・プレスクール参加外の子どもたちも、3/12の小学校就学前説明会へ参加を促した。 ・3/12の小学校就学前説明会で、子ども同士の交流を期待して「子どもコーナー」を設置した。</p>
<p>3. 成果と課題 ※取り組んだ実施事項①～⑥について、それぞれ記入すること</p> <p>実施事項①: ・小学校が、外国人の子どもの家庭状況、言語状況などを早期に知ることができ、日本語指導の必要性の有無、家庭との連絡方法(言語)などを入学前に把握することができる。外国人保護者と小学校の信頼関係を築くことに貢献できた。 ・外国人保護者の小学校入学への不安を軽減し、子どもが就学を楽しみにすることができた。 ・母国に帰国する予定で日本の小学校での就学を希望しない、また、インターナショナルスクールへの就学予定など、就学に関して多様化があらわれている。</p>

実施事項②:

- ・「ひらがなたんけんたい」「ひらがなカード」等、当団体オリジナル教材を使って、町内保育所、幼稚園において年長児、年中児の就学前指導をして、学習態度の向上、小学校就学への期待感を促した。
- ・前述のオリジナル教材を使って、保護者の母語こも子どもが興味を持つ機会を促した。
- ・プレスクールの少人数・個別指導により、課題の見極めをして、保育所との連携、また小学校での指導に良い形でつなげていくことが望まれる。

実施事項④:

- ・①②を利用し、外国人保護者同士のネットワーク、地域とのネットワーク作りができ、外国人保護者が積極的に地域とのかかわることを促し、支援体制が構築された。
- ・不就学や突然の来日による、子どもたちの取りこぼしのないよう努めたい。

実施事項⑥:

- ・①の機会を利用し小学校就学前説明会で通訳を付けて就学ガイダンスの実施。当団体制作のオリジナル就学パンフレットや実物を使用し、説明・配布をしている。
- ・保育所、幼稚園等に未就園の外国人家庭の子どもの情報把握により、就学を促し、地域で孤立せず積極的に交流していく姿勢を促すことができる。
- ・子どもコーナーの設置効果で、子ども同士の交流の促すことができた。
- ・就学の多様化について関係各所との情報共有を継続していくことが必要。

	3～6歳	7～12歳	13～15歳	16～18歳以上 (過年齢)
本事業で対応した子供の数	18人	0人	0人	0人

4. その他(今後の取組等)

- ・出身国地域の多様化のため、的確な通訳、翻訳ができる人材確保に努める。
- ・プレ・プレプレスクールの少人数・個別指導により課題の見極め、保育所との連携、その後の小学校での指導につなげていく。
- ・外国人保護者同士のネットワーク、地域とのネットワーク作りの強化。
- ・多様な地域からの来日がみられるが、今までのネットワークと連携を継続する。
- ・町内にいる私立幼稚園の外国人児童家庭の情報共有をする。
- ・コロナ禍であるが、小中学生の「夏休み宿題教室」の開催を計画する。
- ・コロナ禍で、一時帰国している子どもたちも、やがて日本に再来日の可能性もあり。その際のケアも必要となるので支援の継続をしたい。
- ・「日本語指導員養成講座」の修了生のプレスクール事業への協力を促したい。

- ※ 枠は適宜広げること。(複数ページになっても差し支えない。) 成果物等があれば別途提出すること。
- ※ 事業内容報告書の概要は、担当者・連絡先欄を除き文部科学省ホームページで公開する。